

市民文芸

短歌

令和四年度阿南市文化祭
秋季短歌誌上大会 選

自由題 入選

ばちばちと剪定の音心地よし猛暑も何のそのと庭師は
西崎まき子
雨の後草抜き日和りと立つ畑の草熱れ受け踏み込めず さて
小西 千恵
現在ならば通報したる虐待を救えず無念 あの子忘れじ
庄野 悦子
台風はのらりくらりと迷走中持ちこたへるか大根の芽は
吉田 文恵
寝たきりになると言われて頑張った我來年は喜寿になりませ
十河 慶子
ばあちゃんが袋いっぱい提げて来たトウモロコシを抱けば温し
佐坂 恵子
被爆した母より生まれしこの命語り継がんと壇上に立つ
大津 憲文
麻酔医の問いに応えて眠りゆく半日たちて娘の声に覚む
車田マサ子
汗にまみれ這いずり回ったわが一世笑顔忘れず老いたる日々も
荒瀬左知子
「戦争は絶対にダメ」と論す女後遺症を押しして壇上に立つ
大津 憲文
閉校の校舎の窓に顔寄せて子は見入りたるパパの教室
亀島賀陽子
天と地の間に惑う朝霧の堀一面にハスの花咲く
吉田 文恵
過疎地とて目に余るなり堂々と道路を渡る雉の夫婦は
井坂 絹子

俳句

阿南市俳句連合会選

寒桜堅き蕾の紅ほのか
神原 鹿山
待ちわびる友の快気を花に込め
佐野 峯子
施錠解くスーパー林道芽吹きけり
近藤ヤス子
踏絵の日五島の空の青さかな
宮繁ただし
三匹で足る白魚の躍り食ひ
田中 栄子
椿落つ大地に黄色い蕊見せて
水口 明美
添木より幹太くなり初桜
大西 裕子
父母なくも古里恋し桃の花
神野千鶴子
文机に手紙一通二月尽
喜来富士子
茶柱にほほえみおうて草の餅
岡久 玲子

川柳

阿南川柳会選

目の前に八十路少ない選択肢
渡邊 浪漫
新学期待てずカバンが踊り出す
二階千代美
あいまいな距離が私をまどわせる
近藤 大地
裏表紙の裏からもれてくる本音
野村 敏子
顔パツクすればいきなりチャイム鳴り
原 公美子
さり気なく誘うドライブ孫は春
持木 寿栄

一般応募

年重ね脳細胞もだいぶ痩せ
秋川 和子
じりじりと暮らしを攻める物価高
島尾美津子
泣き寝入る曾孫にやさし青葉風
泰地 重美
鍬の柄を杖に延々立ち話
武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社選

送春

荒瀬左知子

徂春又聽杜鵑聲
杜鵑の聲
微雨輕寒暮色生
暮色生ず
坐見殘紅撩亂落
撩亂として落ち
沈吟巴調奈難成
成り難きを奈せん
深瀬の牛尾の瀧
大野シゲ子
尋來山徑暑威輕
暑威輕く
轟轟老杉風更清
風更に清し
飛流直下白於練
練よりも白く
百尺懸崖雲有聲
雲に声有り

初夏偶吟

増喜 泰典

新樹成雲窈窕中
新樹雲を成す窈窕の中
小閑奪目映山紅
小閑目を奪う映山紅
老鶯未去護春晴
老鶯未だ去らず春を護つて晴る
節序如何彈指空
節序如何ん 彈指の空しきを

映山紅—ツツジ

